

第1部

- ♪ **心揺れる秋、心満ちる秋** 春畑 セロリ
 - 刈干切歌考
 - 村祭り
 - もみじ
 - 里の秋
 - ふるさと

- ♪ **この道** 山田 耕筈

- ♪ **中国地方の子守唄、からたちの花**

- ♪ **赤とんぼう '85**

- ♪ **五木の子守唄** 熊本民謡

- ♪ **わらべ歌春秋** 千秋 次郎

第2部

- ♪ **夢路より** S.C. フォスター

- ♪ **エンタテイナー** S. ジョプリン

- ♪ **ラグドールラグ** H. ブリュワー

- ♪ **なつかしのバージニア** J. ブランド

- ♪ **ラプソディー・イン・ブルー** G. ガーシュウィン

- ♪ **前奏曲 No.2**

- ♪ **マリンバ小協奏曲** P. クレストン
 - 1 楽章 Vigorous (澁刺と)
 - 2 楽章 Calm (穏やかに)
 - 3 楽章 Lively (いきいきと弾んで)

演奏者プロフィール

マリンバ：明瀬 由武 AKASE Yoshitake

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。各ラジオ・テレビに出演。ポピュラーの分野でも全国的に演奏活動を行う。NHK・FMにて新実 徳英「For Marimba」、西村 朗「ソロマリンバのための詩曲」他、数多くのマリンバ作品の初演をする。青年海外協力隊員として中米コスタリカに派遣される。国立音楽院ソルフェージュ科教授、国立交響楽団打楽器奏者。在任中、国立劇場をはじめ各地にてリサイタルを行う。

現在、東京・つくばをはじめ各地にて演奏活動を行っている。

1998年 CD「マリンバの贈り物〜クリスマスの日に〜」

2007年 CD「マリンバの贈り物パート2〜星降る夜に〜」

<http://homepage3.nifty.com/honyaku/y.akase/index.html>

ピアノ：高瀬 奈美 TAKASE Nami

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より打楽器、声楽などの共演者として活躍。

現在各地にてコンサートの企画、演奏活動を行っている。2002年よりバイオリン、フルート、声楽などのゲストを迎えて「夜想曲シリーズ」を展開。また2008年よりソロシリーズ「ピアノ叙情詩集」をスタートさせている。「つくば朝のサロンコンサート」メンバー。

2000年 CD「ソナタとインターリュード」

編曲者

吉川 雅夫 YOSHIKAWA Masao この道、なつかしのバージニア

佐々 涼子 SASSA Ryouko この道（一部）、エンターテイナー

吉岡 孝悦 YOSHIOKA Takayoshi 中国地方の子守唄

明瀬 由武 AKASE Yoshitake からたちの花

中村 均 NAKAMURA Hitoshi 赤とんぼう'85

織田 英子 ORITA Eiko 五木の子守唄

平岡 養一 HIRAOKA Yoichi 夢路より

主催：久守文化基金

マリンバとピアノによる

MARIMBA & PIANO

デュオ・コンサート 2015

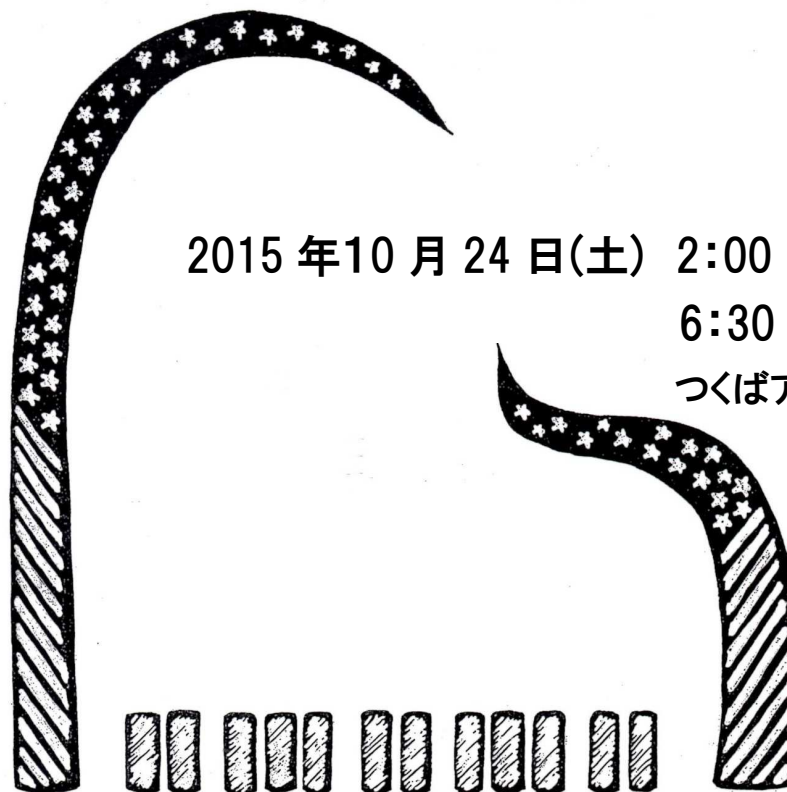
マリンバ 明瀬 由武

ピアノ 高瀬 奈美

2015年10月24日(土) 2:00 PM

6:30 PM.

つくばアルスホール



第 1 部

♪ 心揺れる秋、心満ちる秋

春畑 セロリ

「刈干切歌考」「村祭り」「もみじ」「里の秋」「ふるさと」

春畑セロリさんは、作曲、編曲、執筆、プロデュース、全国でのセミナーなど、精力的に活動をしている方です。彼女に『マリンバとピアノのための四季』をお願いしたのは今から3年前。私（明瀬）はいつか唱歌・童謡を良いアレンジで奏きたいとずっと思っていたのですが、依頼した時に次のような話をしました。「今年の3、11 大震災の後、音楽家として何ができるか悩んでいる時に、NHK の番組で、千住 真理子さんが兄 千住 明のアレンジした曲を被災地で演奏しているという話をし、『浜辺の歌』をスタジオで奏しているのを聴いて、あーこれだ!と思った。小難しくなく、洒落た曲をたくさん書いているセロリさんにぜひお願いしたい」。そして、ようやく完成した『冬は暖炉のそばで』『春、芽吹きするとき』を今年1月に初演しました。

『心揺れる秋、心満ちる秋』は4月に出来上がってきたので今日が初演になります。世代が違っていても、誰もが口ずさめ、聴いて癒されるメロディーを生かしたセロリさんのアレンジをお聴きください。

春畑 セロリさんから・・・新しく、マリンバとピアノのための作品を書かせていただくことになりました。日本のメロディーを素敵な形で、素敵な音で語り継いでいきたいという明瀬さんの意図には強く共感しています。自分が演奏できない楽器の曲を書くのはハードルが高いのですが、深く優しく暖かいマリンバの音に想いを寄せながら、そして1曲1曲、日本人らしい歌心をかみしめながら音符を綴るのは、とても楽しい作業です。今日は、その想いを明瀬さん、高瀬さん、そして聴いてくださる皆様に共有していただけるのが、なにより嬉しく、幸せです。そして、7月に完成した『思い出に逢える夏』は次回のお楽しみ・・・。

♪ この道

山田 耕筈(1886~1965)

「この道」の編曲者 吉川 雅夫さんは、私（明瀬）が最もあこがれているマリンバ奏者です。コンサートでの演奏はもとより、スタジオプレーヤーとしても長年に渡り第一線で活躍しています。吉川さんの編曲は、楽器を熟知しているだけに、豊かな響き、躍動性に富んだリズムなど、マリンバの魅力を存分に引き出しています。今日は作曲家 佐々涼子さんをお願いして、吉川音楽のエッセンスを十分に生かしながら少し手を加えたものを演奏いたします。

♪ 中国地方の子守唄、からたちの花

山田 耕筈

日本古来の子守唄は、その発祥、由来が明らかでなく、ただ歌い継がれてきたものが大半ですが、「中国地方の子守唄」は、その点特異と言えます。岡山県南西部に伝わる子守唄を、そこで生まれ育った弟子の声楽家 上野 耐之が山田の前で歌ったのを聴いて、すぐに独唱曲に仕上げたと伝えられています。山田は幼い頃養子に出され、活版工場で勤務しながら夜学で学んでいました。自伝には「工場でつらい目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いた」と述懐しています。「からたちの花」は山田のその思い出を北原白秋が詞にしたものです。

♪ 赤とんぼ ' 85

山田 耕筈

日本で最初に西洋音楽を本格的に勉強し、交響曲やオペラを作曲した山田 耕筈は砂山「兎のダンス」「ペチカ」「待ちぼうけ」などたくさんの歌曲・童謡を書いています。その中でも特に「赤とんぼ」は私たちに馴染みが深い曲です。今日はポピュラー分野でも活躍している中村 均さんの編曲を演奏いたします。

♪ 五木の子守唄

熊本民謡

11世紀後半から熊本県五木村に伝わる民謡ですが、1951年、古関 裕而の編曲で全国的に知られるようになったとのことです。織田 英子さんは「上野の森ブラスアンサンブル」の専属アレンジャーとして有名ですが、この「五木の子守唄」は「マリンバのための楽しい小品集」の一つとして編曲してもらいました。

♪ わらべ歌春秋

千秋 次郎

千秋 次郎は京都大学大学院工学部修了後 同大で助手を勤めた後、作曲家に転向した経歴の方です。作品数は400曲近くありますが、洋楽器と邦楽器の共演作品も多く書いています。「わらべ歌春秋」は、日本全国に広く知られている「あんたがたどこさ」「かぞえうた」「ずいずいずっころばし」のわらべ歌がメドレー風になっています。「かぞえうた」では、ピアノパートから「六段」が、マリンバパートからは「かごめかごめ」が聞こえてきます。

第 2 部

♪ 夢路より

S. C. フォスター (1826~1864)

フォスター (Stephen Collins Foster) は 19 世紀アメリカ合衆国を代表する作曲家です。38 年の短い生涯の中、「おおスザンナ」「故郷の人々」「草競馬」「金髪の子エニー」など数百の歌曲を書いています。器楽曲はほとんど作曲していません。「夢路より」はフォスター晩年の傑作とされています。

♪ エンタイナー

S. ジョプリン (1868~1917)

ジョプリン (Scott Joplin) はアフリカ系アメリカ人作曲家・ピアノ演奏家で、ラグタイム (ピアノの左手でマーチのリズムを保ち、右手でシンコペーションのあるメロディーを演奏します) の確立に寄与し、「ラグタイム王」と呼ばれていました。「エンタイナー」はアメリカ映画「スティング」のテーマ曲として使用されたことで、特に知られています。

♪ ラグドールラグ

H. ブリュワー (1901~1989)

ブリュワー (Harry Breuer) は 20 世紀初頭に大活躍した鍵盤打楽器奏者・作曲家です。この曲は、Xylophone (ザイロフォン・シロフォン=木琴) のために書かれたもので、アメリカの古き良き時代の酒場の雰囲気を感じさせてくれます。Xylophone も Marimba (マリンバ) も日本語に訳すと同じ木琴ですが、Xylophone はカラカラと乾いた鋭い音をもっているため、オーケストラの中でもその音は飛びぬけて聴こえてきます。ですから、「剣の舞」「道化師のギャロップ」のソロとしても多用されています。

♪ なつかしのバージニア

J. ブランド (1810~1856)

アフリカ系アメリカ人 ブランド (James Allen Bland) が 1904 年ころに作曲した「なつかしのバージニア: Carry me back to old Virginia」は 1940 年、バージニア州の州歌に制定されました。歌詞の内容は「農場で主人のために毎日忙しく働いた。辛い労働の場所だったが、バージニアは私が生まれた土地、ここほど懐かしい場所はない。」というものです。

♪ ラプソディー・イン・ブルー G. ガーシュウィン (1898~1937)

ガーシュウィン (George Gershwin) は、ポピュラー音楽、クラシック音楽の両面で活躍し、アメリカ音楽を作り上げた作曲家とされています。彼は、オペラ「ポーギーとベス」、ミュージカル「ショー・ガール」、映画音楽「踊る騎士」、管弦楽曲「パリのアメリカ人」などをはじめ、39 年の生涯の中で数多くの作品を残していますが、その中でも特に知られているのが、この「ラプソディー・イン・ブルー」です。1924 年に 2 台のピアノのためにかけられたものを、組曲「グランドキャニオン」の作曲家グロフエ (Ferdinand Rudolph von Grofé) がオーケストラとピアノのための協奏曲風に編曲しました。今日はガーシュウィン自身がピアノソロ用に編曲したものを一部抜粋して演奏します。

♪ 前奏曲 No.2

G. ガーシュウィン

この作品は 1926 年、ピアノのために「3 つの前奏曲: Three Preludes」として作曲されました。この曲にもジャズやブルースの影響が色濃くみられます。その後、さまざまな楽器のために編曲されています。なかでもガーシュウィンと親交のあったヤッシャ・ハイフェッツ (Jascha Heifetz) によるヴァイオリン独奏用の編曲は有名で、今日はその中の 2 曲目を取り上げます。

♪ マリンバ小協奏曲 P. クレストン (1906~1985)

クレストン (Paul Creston) は、イタリア系のアメリカ合衆国の作曲家・オルガニストです。15 歳で学校を中退後、オルガニストをしながら独学で作曲・音響学を学び、その後、ヘンリー・カウエルに認められて「ピアノのための 5 つのダンス」で一躍有名になりました。このマリンバ小協奏曲は 1940 年に世界最初のマリンバとオーケストラのための曲として、カーネギーホールで演奏されました。色彩感あふれる和声の豊かな響きと、ジャズ 的なリズムが特徴です。また、2 楽章全体を流れる 4 本の撥で奏する和音の美しさは絶品で、初演から 75 年たった今でも、多くのマリンバ奏者に取り上げられています。